

LIVE REPORT

04|07 fri. 広島クラブクアトロ

Suchmos

最高のグルーヴを
繰り出す時代の寵児、
その裏にある絶対的音楽愛

「これから広島が震撼するぜ！」——開演直前の広島クアトロ、僕の横にいたひとりの男性が興奮した口調で口走った。普段なら「大げさな……」と思うところだが、この日ばかりは様子が違う。Suchmos、セカンドアルバムを引っ提げての【TOUR THE KIDS】。全公演ソールドアウト。もちろん広島も分殺で即完。ファンキーなR&Bが流れる会場はライブハウスというよりクラブに近い雰囲気、目下ナンバーワンの注目株の生アクトを早く観たいと異様な期待感に満ちていた。

6人のルーディたちが舞台上に登場すると大きな歓声が起こった。1曲目は『A.G.I.T.』。挨拶がわりのスクラッチからブツといギターが鳴り響く。その瞬間、背中に鳥肌が立った。こりゃホンモノだわ。フテプテいほどルーズなグルーヴ。それに乗るYONCEのヴォー

ーカルがまた映える。そのまま『YMM』に突入。ミディアムテンポで踊らせておいて、ブレイクではベースはチョッパーを響かせ、DJはソウルクラシックを挿入、その上にエレビの流麗なサウンドを溶け込ませる——って、とにかく最初にしたのは彼らの音楽性&バンド力の高さだった。特に間奏部分はジャムバンドのようにスリリングな演奏を聴かせていく。フリーかつ弾力性のあるアンサンブル。それが楽曲に躍動感を与え、フロアの温度を高めていく。つまりSuchmosは、まず最高のダンスバンドだったわけだ。

「サンフレッチェ、ナイス！ 地元好き？ おれらも地元好き。そんな歌をやりませう」。

YONCEは意外とJリーグ好き？ そんな前フリからドロップされたのが『PINKVIBES』。それにしてもこの男の放つ空気は只事ではない。クールなようで色気がある。女子供だけでなく大人の男も惹きつける華がある。ジャジーなグルーヴに身をくねらせ、人差し指を突き上げて客にメッセージを注ぎ込む。基本ジェントルである。しかし本質はホットである。たまにオチャメなところもある。長い手足を振り乱してVIBESを浴びま

SET LIST

- | | | |
|----------------------------|----------------|---------------|
| 01. A.G.I.T. | 07. MINT | 13. STAY TUNE |
| 02. YMM | 08. TOBACCO | ENCORE |
| 03. Alright | 09. Wiper (新曲) | 01. Miree |
| 04. PINKVIBES | 10. GAGA | 02. SEAWEED |
| 05. BODY | 11. SNOOZE | 03. Pacific |
| 06. S.G.S.4
-short ver- | 12. DUMBO | |



くる様子は、平成のソウルマンと呼んで差支えないグルーヴの申し子だ。

ライブは聴きどころが満載だ。『MINT』のチルアウトしたリズムに乗る、ささくれたったノイズギター。ユルさとヒリヒリ感の同居するこの触感がSuchmosの肝であり、今の時代の音なのだろう。「今シーズンの新加入選手を紹介しましょう。野球で言うドラ1」なんていうユーモラスな口上から新曲『Wiper』を披露。これがフライングV使用のラウドなロックで、今後Suchmosはより荒々しく、より獰猛になっていくことを予感させる。アップテンポのディスコ調『GAGA』は中盤、狂乱のハウスパーティーに展開、その後素知らぬ顔で元に戻してみせる手練手管に感嘆符が止まらない。腰が動いてたまらない。

「音楽と音楽を聴く人すべてをリスペクトします」「音楽最高だよ。音楽、超好きだわ。音楽好きな人、幸せそうな顔してるもんね。そうなたらいいよね。みんな好きなもの続けよう」……。

イカしたダンスミュージックに酔いしれる中、ひとつ気付いたのはYONCEが何度も訴える音楽愛だった。正真正銘のミュージックラヴァー。

グルーヴへの絶対的信頼。Suchmosが今、社会現象的な注目を集めているのは単に彼らがカッコいい音楽をやっているからではない(もちろんそれもあるが)。彼らは「音楽とは本来ものすごくカッコいいものだ」ということを極めて純粋に訴えているのだ。それはある意味バンクであり革命的な姿勢である。

本編は彼らをオーバークラウドに押し上げた絶品のキラーチューン『STAY TUNE』で終了。個人的にはアンコールラスト『Pacific』のメロウネスとYONCEのファルセットフェイクに完全にノックアウトされた。客電の点いた会場は清々しいムードに包まれていたが、それは期待を超えるパフォーマンスと「やっぱり音楽っていいよね」という一体感を皆が感じたせいだろう。Suchmosが担っているのは音楽(グルーヴ)そのものの復権である。彼らの進撃はまだはじまったばかりだ。

★ 【WILD BUNCH FEST. 2017】
8月20日(日) 山口きらら博記念公園

